

中東情勢・実務セミナー 「石油・ガスの将来像～環境側面と資源量～」

実施場所： ホテルグランドアーク半蔵門 3階「光の間」
実施日： 2014年2月6日（木）15:30～17:30
講師： 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 石油開発推進本部
上席客員研究員 石井 彰 氏

（講演概要）

今回は、これまで開催して参りました「中東情報セミナー」をより一層実務に役立つ内容とするため、「中東情勢/実務セミナー」として開催することとし、エネルギー・アナリスト、エネルギー・環境問題研究所代表としても活躍されている石井 彰氏にご登壇頂きました。

ジャンボ・ジェットエンジンの1基分の設備容量4万kWに相当する発電電力量を太陽光パネルで確保するだけでも、空港全体ほどの広大な敷地が必要であり、またその設置区域の生態系が太陽光の大部分を奪われる結果、保水力に影響が出てくるという指摘がありました。また、江戸から明治初期にかけては、薪炭への依存の結果驚くほど禿山が多く、現在の森林の多さはその後の植林とエネルギー転換のおかげだったという指摘がありました。したがって、「再生可能エネルギーは、クリーンでグリーン」という紋切り型の固定観念には問題が多いということです。

また、シェールオイルやシェールガスの資源量については、中東・中央アジアは、ごく一部しか調査はされていないとのことですが、通常原油・天然ガスが生産されているところでは、その下にシェール（頁岩）に含まれた資源があるとのことで、一時期騒がれたピークオイル論は下火になっており、また、開発には大量の水が必要と言われていたのに、簡単に液化できるLPGを代替利用する技術も開発されている等の情報をいただきました。

2000年代に入って、温暖化ガスの濃度上昇と全球的な温度変動が乖離している（平均気温の上昇がみられない）ことが注意を惹きつつありますが、それに拘わらず環境負荷とエネルギー密度、コスト等を総合的に考慮すると、化石燃料の中で一部をガス転換することが「現実的な」戦略として浮かび上がるということでした。

（成 果）

参加者ほぼ全員から好評をいただきました。

講義について「薪炭の時代との比較など大変わかりやすく、知識として定着しやすい内容であった。」「日本の自然が昔は実は破壊されていた。この事実をもっと広く知らしめるべきだと思います。」「エネルギーの環境負荷という視点が新しく、大変勉強になった。」と多くの写真を交えて解説されたことも高く評価されています。

今後のセミナーのテーマにつきましても、参加者の方々から、「Oil & Gas と中東政治について」、「中東の各国情勢を国ごとに」、「法的な規制の違いを知りたい」、「社会インフラ関係」等の多様なご希望を戴きましたので、今後の中東情勢/実務セミナーが皆様のご関心にお応えできるよう努めてまいります。

(担当 三次)



